

美味は、隣の食卓に学べ。

ベルギー (1995年・16か国目)

旅の楽しみのひとつは、ご当地のおいしいものに出会うこと。レストランでは、周りのお客さんが食べているものと同じものを注文することが、美味に出会う秘訣です。これまで出会った一番の料理は食の都ブリュッセルで食べたムール貝。注文すると60個くらいのムール貝が大きな鍋に入って出てきます。まず、そのボリュームにビックリ。口にすると、パセリとセロリが隠し味の絶品のスープ。味にもビックリの逸品でした。



ぼくの後ろの白い服の女性は2人前のムール貝(100個以上)を注文していました。

オーロラどころじゃなかった…。

グリーンランド(デンマーク領) (2009年・100か国目)

記念すべき訪問100か国目は、友人のご夫婦といっしょに訪れたデンマーク領グリーンランド。旅人の憧れであるオーロラを見に出かけたのです。しかし、さすがは北極圏、気温はなんと流れる川も凍る-30℃。室内との温度差50℃という過酷な世界です。寒さに弱いぼくは、オーロラどころではありませんでした。淡い緑色の光が夜空をひらめきますが、美しさよりも寒さ…。のんびり観測なんて出来ませんでした。



どこまでも続く雪と氷の白い世界は、人類を寄せつけないようです。



100か国目の記念は北極圏。旅人憧れのオーロラ観測を選びました。

空飛ぶ車イス、ほんとうに空を飛ぶ。

ネパール (2005年・61か国目)

ネパールの第二の都市ポカラはヒマラヤが周辺に見られる風光明媚な保養地。新婚旅行で訪れました。ここでは、プロペラ付グライダー滑空を楽しみました。標高7000メートル級のアンナプルナ連峰やマチャプチャレが目前に迫ってきます。ネパールで1週間滞在して使ったお金は150ドル、グライダーに乗るには1時間で1人191ドル。少々贅沢ですが、「神様になった気分」になるには安いものでした。



横並びに乗るこの機種は、乗客も操縦することができます。



神々しい山々に近づけば、「神様になった気分」になります。

あのメジャーリーグを笑わせた。

アメリカ (1993年・1か国目)



NYヤンキーススタジアムにて、イチローと松井との初対戦。長嶋茂雄氏も来ていました。

初訪問から10年後、2003年に社会人のぼくはアメリカに留学。休暇を利用してアリゾナ州へメジャーリーグのキャンプ視察に出かけました。お目当てはシアトル・マリナーズのイチロー選手。彼はカートに乗って登場。「ICHIRO!」という歓声が沸く中、ぼくは女子高生のような甘い声で「鈴木くん」と声を掛けました。さすがにこれには、スターも大爆笑。周りの人たちは「なんて声を掛けたんだ?」「すごいね」と称賛。ぼくも得意顔でエッペン。

白い世界と高山病の幻想

ボリビア (2007年・72か国目)

旅で死にかけた経験もあります。チリからウユニ塩湖を経てボリビアに抜けるツアー。標高4400メートルの温泉で、調子に乗って泳いだら菌が体内に入り、高山病と相まって体調悪化。ハイライトであるウユニ塩湖に着いた頃には意識朦朧。夜行列車とバスを乗り継ぎ、首都へ移動したときに幻想を見て路上でダウン。親切な警察官に助けられ、9日間の緊急入院。病院でのスペイン語は大変でした。



はりきってはいってしまった標高4400メートルの温泉。



白く美しいウユニ塩湖は、生き物が住めない死の世界でもあります。

世界110か国を訪問!

選りすぐり車イス世界旅行記 byきーじー

車イスでも旅行がしたいでも、飛行機や電車、バスはどうしよう…。トイレはあるのか?ホテルに泊まれるのか?そんな心配ばかりが先立って、自分は旅することができないと思いがちではありませんか。旅という素晴らしい非日常体験を最初からあきらめないでください。人は誰でも慣れと度胸、そして少しの智慧で、どこにでも行けるものです。その証拠を私「きーじー」こと木島英登が皆さんにご案内。1993年のアメリカ旅行以来、18年間に110か国を巡ってきた経験と情報の一部をここでお伝えします。車イスの人を含め、どんな人でも旅行を楽しむことができる一助となれば幸いです。皆さん、どうか夢をかなえてください。

木島氏がサイトに登場しています。NTT西日本ルセント「ドリームアーク」<http://www.dreamarc.jp/>

月の砂漠でラクダに揺られ…。

モロッコ (2005年・60か国目)

新婚旅行で訪れたモロッコでは、サハラ砂漠のラクダツアーを体験しました。夕方、ホテルを出発して砂漠の真ん中にあるテントで一泊し、朝日を見て戻ってくるというもの。ラクダに乗るから車イスは必要ないだろうとスタート地点に置いて行きましたが、車イスが手元にならないうちに1泊2日間。携帯電話を忘れて出かけたような落ち着かない気分。いや、肉体の一部がないような不安感。そんな非日常も旅の魅力。ドキドキの開放感に興奮しませんでした。



乗りやすい一番大きいラクダを用意してくれました。



ぼくは砂丘に登れないので、この砂漠の夕日は妻が撮影しました。

トラックで合唱しながら48時間。

マダガスカル (2006年・69か国目)

すし詰め状態のカミオントラックバスに揺られること48時間。マダガスカルでは道なき道を進む旅を経験しました。パンクやぬかるみで立ち往生…などトラブルは4~5時間に一度の頻度で発生。夜になると辛い道中に耐えるため、女性たちを中心に大合唱がはじまります。自分たちの好きな歌をいっしょに順番に歌っていくのです。



ぼくも「ふるさと」を歌いました。この一体感に支えられ辛い旅を続けることができました。



老若男女100人ほどが、すし詰め状態で乗り合うカミオントラックバス。

象の道は、王の道

カンボジア (1999年・32か国目)



どこまでアンコール・ワットの本堂に近づけるか。地元の少年たちが手招きしてぼくを呼びました。車イスでもそばまで行ける道を案内してくれるというのです。それは、知る人ぞ知る抜け道。かつて王様が象に乗って入ったといわれる「象の道」でした。その後、少年たちは本堂の回廊まで車イスを担いでくれました。彼らの親切のおかげで、ガルーダや阿修羅など仏教にまつわるレリーフを満喫することができました。

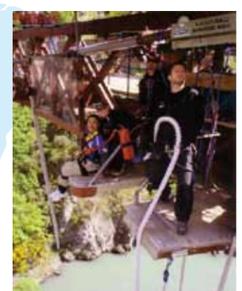
木島 英登(きじま ひでと)

1973年大阪生まれ。高校3年生のとき、ラグビー部の練習中に下敷きとなり、第11胸椎を脱臼圧迫骨折。脊髄を損傷。以来、車イスの生活に。神戸大学1年の夏、1か月のアメリカホームステイをきっかけに旅にハマる。現在まで18年間で世界110か国を訪問。そのほとんどが一人旅。7年間の広告会社(株)電通勤務を経て、バリアフリー研究所を設立。講演・執筆・コンサルなどを行う。著書に、「空飛ぶ車イス」(「空飛ぶ車イス」)「空飛ぶ車イス」(「空飛ぶ車イス」)がある。2011年、NPO法人Japan Accessible Tourism Centerを設立し、訪日外国人へのバリアフリー旅行情報の提供を開始。

バンジージャンプにトライ!

ニュージーランド (2008年・90か国目)

ニュージーランドは最も好きな国のひとつです。この国では、まずトイレに困ることがありません。どこにでも車イスで入れる大きなトイレがあるのです。そんな障がい者を特別視しないお国柄だから、バンジージャンプもOK。バヌアツの成人儀式を世界で最初に観光アトラクションにしたカワラク橋。ここでぼくはバンジージャンプにトライしました。全身ハーネスを装着して、43メートルからジャンプ。ラスベガスで断られたスカイダイビングの雪辱を果たしました。



高さ43メートル。15階建てのビルの高さに相当します。



極度の緊張感の中、掛け声とともに谷底へジャンプ。

空飛ぶ車イス、木島英登氏プロデュースのイベントです。

誰もが!自由に!行きたい場所に! ビッグ・アイトラベルサロン

バリアフリー旅行に関する知恵と情報が集まるトラベルサロン。ゲストスピーカーを招き、「旅行」「外出」「移動」に関する相談会・勉強会を開催します。テーマ:10月「トラベルサポーター」、11月「バリアフリー旅行会社」、12月「台湾車イス旅行体験談」

■日時 10月7日(金)・11月4日(金)・12月2日(金) 17:00~相談タイム、18:30~勉強会、20:00~台湾旅行の準備  
■会場 国際障害者交流センター バリアフリープラザ  
■参加方法 事前申込不要。開催時にお気軽にお越しください。旅行が好きなら誰でも参加可能。途中参加、途中退出、一部参加だけでもOKです。

サロンでは、旅行に関する談話・相談・勉強会を通して、実際に海外旅行を計画し、実行します。初年度は台湾(希望者のみ3泊4日、2/24(金)~2/27(月)、10万円程度)。

お問合わせ 国際障害者交流センター トラベルサロン係 TEL.072-290-0962 salon@big-i.jp

学ぶ!楽しむ!つながる! ビッグ愛カフェ

ペーカリー・カフェで地域の人に喜ばれるパンやコーヒーを提供している障がい者がいます。ハンディキャップを持つ彼らの「できる」ことを探して支えている人がいます。今回の愛カフェは、お客さんの「美味しい」「ありがとう」のために日々研鑽を積んでいる方々とそれを支えている方々(パンづくりや陶芸に取り組みコンテスト受賞歴を持つ「修光学園」と障がい者が働くカフェを福祉施設とコラボレーションされている「島珈琲」の皆さん)をお迎えします。十人十色の「仕事のやりがい」。お客さんの感謝、充実感、生きてよかったと思う瞬間・目標を見つづらぬに在る人・伸び悩んでいる人「やりがい」を持って働いてもらうには・愛カフェで意見交換してみませんか?

■日時 11月3日(木・祝) 14:00~17:00  
■会場 国際障害者交流センター 修習室  
■ドリンク代 500円 ■申込締切 10月28日(金)  
■講師 社会福祉法人修光学園、島珈琲

お問合わせ 国際障害者交流センター 愛カフェ係 TEL.072-290-0962 cafe@big-i.jp

human note x 瑞宝太鼓 コラボレーションコンサート ウタのタネ in ビッグ・アイ ~届け!ウタのちから 響け!太鼓の魂~

知的障がいというハンデを乗り越え、第9回東京国際和太鼓コンテストで全国2位に輝いたプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓(すいほうたいこ)」と、600名のシンガーズ「human note」のコラボレーションコンサートが決定しました!



11月23日(水・祝) 開場:16:00 開演:17:00  
会場 国際障害者交流センター ビッグ・アイ  
チケット 前売り 1,500円 当日 1,800円  
主催 一般社団法人 ウタのタネ

一般参加 singers 募集!

エンディングで2曲を一緒に歌ってくれるメンバーを募集します。

■練習日:11月5日(土)、11月12日(土) ■リハーサル日:11月20日(日)午後  
■場所:ビッグ・アイ 多目的ホール ■参加費:2,000円 ■募集人数:50名  
■募集締切:10月22日(土)

■募集方法:メールにてお申込みください。 zuiho2011@yahoo.co.jp  
ウタのタネ実行委員会 事務局 090-2195-3668 (廣瀬)

お問合わせ <http://www.human-note.com/>

Present i-co読者プレゼント 木島英登氏の著書「空飛ぶ車イス」を5名様にプレゼント!

応募方法 郵便はき、ファックス、電子メールにてそれぞれ、お名前(ふりがな)、ご住所(郵便番号をお忘れなく)、お電話番号、本誌へのご感想やご希望、ご質問などをご意見をご記入いただき、ご応募ください。※読者のみなさまからいただいたご意見をi-co誌面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

編集後記 ■木島さんのお話を聞いていると、ほんとうに旅に出かけたくなります。笑顔との出会い、美味の発見、なによりも未知の体験…。ワクワクドキドキがいっぱい待っている旅。出かけるにはちょっとした勇氣がほしいです。(も) ■旅先に素敵な出会いを求めて幾星霜。まだ運命の人とは出会っていない。しかし、次は、次こそ…。運命の出会い。もしかしたらそれは、あなたに訪れる未来かもしれない。さあ、世界があなたを呼んでいる。(は)

■個人情報の取り扱いについて... お預かりしたお客様の個人情報は、本誌の運営・業務目的に利用させていただきます。目的外での利用はいたしません。また、お預かりした個人情報は、読者のみなさまの同意なしに、業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)。